

◆研究課題

千葉県における農家民宿・民泊の現状と普及拡大の可能性

◆研究成果の概要

【研究目的】

現在、政府では観光政策の中心の一つとして「農家民宿・民泊の推進」を掲げている。本研究では、千葉県内の農家民宿・民泊の状況を明らし、その特徴を考察する。さらに、今後千葉県内で農家民宿・民泊が普及拡大する可能性についても考察し、普及拡大するためのポイントを提示する。

【従来の研究】

近年増加傾向にある農家民宿・民泊については、小中高による教育旅行の側面に焦点を当てた研究はいくつかある。しかしながら、ヨーロッパで見られるような、個人旅行者による農家民宿・民泊を事例に取り上げた研究はほとんどない。今後、日本においても余暇活動の益々の多様化によって、大都市住民によるルーラルツーリズムが広まり、家族を中心とした農家民宿・民泊を利用した旅行が増えると予想される。したがって、農家民宿・民泊の研究の蓄積が望まれており、本研究はその一端を担うと考えられる。

【千葉県の農家民宿・民泊研究の可能性】

本学が所在する千葉県内には房総地域を中心に、棚田や花卉などを観光資源としたルーラルツーリズムが展開されており、現在まで農家民宿・民泊もいくつか点在している。千葉県は首都圏に位置することから大都市住民が旅行する場合のアクセスに優れ、豊かな農村、自然環境を有するため、これからの農家民宿・民泊の増加が期待されている。したがって、本研究において、現在の千葉県内の農家民宿・民泊の経営の実態を把握しながら特徴や問題点を明らかにしながら、県外の先駆的な農家民宿・民泊の事例をフィールドバックさせることは、今後の千葉県が国内の農家民宿・民泊の先進地域として発展するためにも非常に重要な研究であると言える。

【日本における農家民宿・民泊の現状】

農家民宿とは、農家が営む民宿を指す。民宿とは「旅館業法」に基づく“簡易宿泊営業”登録を受けた宿泊施設である。また、一般の民宿は客室延床面積が33㎡以上を要するのに対し、現在では農家が営む民宿（農家民宿）は33㎡未満でも営業が可能である。また、農家民宿には食品衛生法などその他の関係法においても、各都道府県独自の規制緩和がある。「農家が経営している民宿」としての農家民宿の数は正確には把握できないが、参考までに農林業センサスで把握されている農林漁業体験民宿数は2010年では2,006軒であり、2005年の1,492軒に比べて約500軒増加している。

農家民泊について、農家民宿との違いは「旅館業法」の登録を行っているかどうかである。つまり事業として宿泊業経営をしていないのが「農家民泊」である。

【千葉県内の農家民宿・民泊の動向】

千葉県内における農家民宿・民泊の全体的な傾向は以下の通り。

- ・ 農家民宿の軒数は少なく、房総半島南部に分布
 - 農業：いすみ市 1 軒、大多喜町 2 軒、館山市 1 軒、鴨川市 4 軒、南房総市 3 軒。農漁業：南房総市 10 軒
- ・ 地域運営型の農泊地域はここ数年で増加し、広がりを見せている
 - いすみ市：いすみ市農泊・インバウンド推進協議会、鋸南町：鋸南町農泊推進協議会、鴨川市：鴨川市長狭ビレッジ農泊推進協議会（教育旅行の誘致）、南房総市：特定非営利活動法人千葉県自然学校（古民家を活用して農泊）、柏市：手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会、香取市、多古町、木更津市：道の駅を拠点に農泊、山武市：インバウンドホームステイで農泊、芝山町：(社)緑と空のプロジェクト（申請中）
 - 農家への宿泊（農泊）よりも、日帰り型の多様な農業体験プログラムづくりが進んでいる。
 - 古民家利用の宿泊施設、農家レストランなどが増加している。
- ・ インバウンド客による農家民宿・民泊利用
 - 個人旅行客の農家民宿の利用は進んでいない
 - 千葉県による外国へのプロモーション活動により、台湾からの教育旅行（修学旅行）による農泊利用は進んでいる

【個別の農家民宿・民泊経営の特徴】

本研究では、千葉県内の農家民宿 2 軒、県外（北海道、秋田県、岡山県、福岡県）の農家民宿 4 軒において視察およびインタビュー調査を実施した（表 1）。調査結果から見える農家民宿・民泊経営や宿泊客の特徴は以下の通りである。

- ・ 農家民宿経営
 - ✓ 家族経営（夫婦が中心）
 - ✓ 一日一組のみ宿泊受け入れ
 - ✓ 母屋と宿泊棟が別棟
 - ✓ 自らの開設している HP 経由での宿泊予約が主
 - ✓ 自家栽培、地域の農産物を料理に提供。夕食は宿泊客と一緒にとるケース多い
 - ✓ 女性（妻、母）が料理や宿泊客対応などを行う
- ・ 宿泊客
 - ✓ 年間宿泊客は 70 人～350 人
 - ✓ 教育旅行の受け入れは少ない
 - ✓ 4～10 月に宿泊客が集中している
 - ✓ 子連れの家族客が多い

- ✓ 週末を中心に1泊または2泊が多い
- ✓ インバウンド客はSNSを通じて来訪
- ・その他の特徴
 - ✓ 立地：大都市圏からの距離は関係ない。むしろ、宿泊施設としての質や周囲の環境が重要＝農村らしさ
 - ✓ 滞在目的：農業体験もあるが、周辺の観光拠点として利用されている
 - ✓ 農業と宿泊業の関係：あくまで農業がメイン。繁忙期には宿泊を制限するところも
 - ✓ 建物の構造：宿泊空間とオーナーの居住空間が完全に分離されている。お互いに気を遣わない
 - ✓ 宿泊料金：他の宿泊施設タイプに比べ、安い料金設定

表1 農家民宿経営の状況

	A	B	C	D	E	F
所在地	千葉県館山市	千葉県鴨川市	北海道遠軽町	秋田県仙北市	岡山県久米南町	福岡県うきは市
経営者の出身	地元	外部	外部	地元	外部	地元
立地	平地、集落	山間、独立	平地、独立	平地、集落	山間、独立	山間、集落
開業年	2009年	2011年	2015年	1996年	2002年	2007年
部屋数	4部屋、キッチン、ダイニング	2部屋、キッチン付(1日1組)	2部屋、離れ1棟キッチン、ダイニング付	1部屋、離れ1棟キッチン、ダイニング	2部屋、キッチン付(1日1組)	2部屋、キッチン付
宿泊空間	母屋から独立した別棟	母屋から独立した別棟	母屋と共同(2部屋)、母屋から独立した別棟	母屋と共同(2部屋)、母屋から独立した別棟	母屋から独立した別棟	母屋から独立した別棟
料金	2食付5500円、素泊まり3000円	2食付6700円、素泊まり3500円	2食付9000円、素泊まり6000円	2食付7000円、素泊まり4000円	2食付5500円、素泊まり3000円	2食付7000円、素泊まり3500円
年間宿泊者数	約300人	70～80人	350人	—	150人	231人
平均泊数	1泊	1泊が主	—	1泊(リピーターは2泊)	ほとんど1泊	ほとんど1泊
宿泊客の居住地	首都圏	首都圏が9割	全体の3割インバウンド。日本人の半数は首都圏、道内1割	関東1/3、インバウンド1割	大阪、首都圏、名古屋が多い	福岡県内(福岡市、北九州市)がほとんど
リピーター	半分以上	3割程度	—	9割	8～9割	1割弱

(現地調査をもとに筆者作成)

【千葉県における今後の農家民宿・民泊の普及拡大のカギ】

- ・千葉県の優位性
 - 客層の大半を占める大都市圏からの恵まれたアクセスをどう生かすか
 - 千葉県の農業は多品種栽培で農業生産量も多い。各種農業体験プログラム作りが可能
- ・農家民宿・民泊の普及拡大への課題
 - 既存の宿泊施設との連携。農業体験、食事は農家、宿泊はホテルや旅館に